

苫小牧市教育委員会会議録

会議区分	苫小牧市教育委員会 第 14 回 定例委員会
日時	平成28年12月22日 自 15時00分 至 15時34分
場所	市役所本庁舎9階第2委員会室
出席委員	教育長 和野 幸夫 委員 上原 毅 委員 佐藤 郁子 委員 佐藤 守 委員 植木 忠夫
欠席委員	
会議録署名委員	上原 毅 委員
会議録作成職員	総務企画課主事 前田 亜矢子
事務局職員	教 育 部 長 松 浦 務 教 育 部 次 長 瀬 能 仁 教 育 部 参 事 丹 野 靖 彦 総 務 企 画 課 長 釜 田 直 樹 科 学 セ ン タ ー 嘱 託 館 長 相 内 宏 司 総 務 企 画 課 主 査 下 濱 辰 哉 総 務 企 画 課 主 事 高 橋 優 介
会議案件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（和野教育長）・・・15時00分
2 会議録署名委員の指名（上原毅委員）
3 会議録の承認
（和野教育長） 第13回定例教育委員会（平成28年11月18日開催）の会議録
について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
（一同「はい」の声）
-会議録どおり承認-
4 教育長の報告
（和野教育長） 初めに、本日は13時からの総合教育会議へのご出席ありがとうございます。
11月18日に開催された第13回定例教育委員会以降の事業などについて報告いたします。
小学校が本日22日、中学校が昨日21日に2学期の終業式を終え、冬期休業に入ります。3学期は、小学校が1月17日、中学校が16日に始業の予定であります。
例年、インフルエンザが心配される年の瀬であります。昨年12月の委員会では、インフルエンザによる学級閉鎖などの報告を行っていませんでしたが、今年は緑陵中学校で12月9日から13日まで2学年3学級の学級閉鎖を行っております。その後の学級閉鎖はありません。市役所内ではフロア単位でインフルエンザの罹患が出て

おりますが、学校全体としては大きな広がりにはなっていない様子であり、安堵しているところでもあります。

11月22日に第8回定例市議会の議案説明会が開催され、12月1日から9日までの会期で市議会が開催されております。後ほど内容を簡単に説明させていただきます。

12月3日には、文化交流センターで第40回中学生主張発表会を開催いたしました。植木委員にも、審査委員長をお引き受けいただいております。14校を代表する生徒が、日頃の生活の中で感じていることや考えていることを発表いたしました。

今年は、苫小牧東中学校2年生の古川樹夏さんが最優秀賞を受賞しております。

「フクシマとつながる苫小牧」として、昨年まで母と一緒に福島の子供たちへの思いが伝わってくる内容でありました。他にも、非核平和事業での広島派遣で得た原爆に対する思い、こども国際交流事業で見てきた東南アジアの人々に対する印象など、さまざまな事柄についての主張発表でありました。中学生の純真な視点での訴えに考えさせられる内容でありました。

次に、第8回苫小牧市議会定例会についてであります。一般質問では17名の議員が質問に立ち、教育関係では11項目の質疑が行われました。

項目の内容については、明德小学校地域説明会後の「特別支援学校設置要望の現状について」、「公園利用について」、「就学援助の拡大について」、「科学センターの市民ホールへの統合について」、学校施設整備に関して「光洋中学校の体育館照明と体育館改築について」、「学校トイレの洋式化や悪臭対策について」、「全小中学校への防犯カメラ及びオートロックの設置について」、「樽前小学校の施設整備と改築について」の質疑がありました。他には、「修学旅行の在り方や命と献血の学習について」、「インクルーシブ教育システムについて」、「小・中学校施設整備計画について」、「小中一貫教育について」、「チーム学校とコミュニティ・スクールの取組について」の質疑がありました。

踏み込んだ答弁として、1つは就学援助事業の項目の拡大と新入学用品費支給の早期対応についてであります。以前から議会でも議論をしてきたところですが、やらない理由を述べるのではなく実施する工夫をすることにより、現場にはお手数をお掛けしますが、子供たちのために前に進むことができたと考えております。

もう1つは、「小中一貫教育」や「コミュニティ・スクール」についてであります。現在は国の委託事業などで組織を立ち上げて研究を進めているところではありますが、苫小牧市として具体的に検討する時期に来ていると考えます。そのため、平成30年度を目途に検討組織を立ち上げると答弁しております。本市の課題の1つである不登校対策としての位置づけもありますし、教育行政や教育体制は子供たちの活躍を後押しするものでなければならないと考えます。さまざまな課題もあると思いますが、検討したいと考えております。

最後に、新年に入りまして1月8日には成人式が予定されております。また、1月27日には定例教育委員会と新年会が予定されております。何かと忙しい年の初めではありますが、よろしくお願いいたします。

以上、報告といたします。質問等はございますか。

(一同「なし」の声)

5 議 案

第1号 教育委員会職員の処分について（報告）

(和野教育長) 議案第1号につきましては人事案件でございますので、教育委員会会議規則第21条の規定により秘密会とし、この場合、当該議案の審議を日程の最後

に行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(和野教育長) それでは、議案第1号を秘密会とし、日程の最後に審議を行うことに決定いたします。

6 協 議

(和野教育長) 協議事項をお持ちの方はいらっしゃいますか。

(一同「なし」の声)

7 その他

(1) 科学センターに関するアンケート調査結果等について

(科学センター嘱託館長) -科学センターに関するアンケート調査結果等について
説明-

(和野教育長) 質疑に付します。科学センターにつきましては、12月の市議会で今年度中にある程度の方向性を示すという答弁をいたしました。教育委員の皆様とも意見を交換して、教育委員会としての方向性をある程度決めなければならないと考えています。本日はその下準備として、さまざまなアンケートをお示しいたしましたので、ご意見があればお聞かせいただきたいと思います。

<p>(佐藤守委員) かなり古い施設なので、基本的には建て替えや市民ホール等の建築の際に併設することになるかと思いますが、その辺の考えはまだはっきりされていませんということですか。</p>
<p>(教育部長) そもそも、市民ホールにつきましては、総合政策部が公共施設の計画を作成したときに、市民会館、文化会館、交通安全センター、科学センター、労働福祉センターの5施設が中心部にあるので統廃合を検討したいということで、市民生活部所管の市民会館の改築の中で検討して欲しいということになり、提案したものとなります。市民ホール建設検討委員会は、現在市民を巻き込んでやっているのですが、去年は基本構想という形で、どのような施設が良いのか、具体的な部室名というよりは、どのようなものを目指して改築していくかということをやっていただきました。今後、平成29・30年度に基本設計を行うというふうに聞いております。</p>
<p>そういった中で、実は、市民ホールの改築だけでも相当なお金が掛かるということで、科学センターについては、私どもはどれくらいお金が掛かるか考えたことはないのですが、たまたま旭川市が50億円くらい掛けて数年前に改築しているものですか、それくらいの大きな建物を市民ホールに入れるのはなかなか難しいのではないかと、このことで、教育委員会として科学センターをどうしていくべきか、別個に検討してもらえないかという話が市民生活部から来ております。市議会の中でも、2回ほど議員さんから同様の話をいただいて、先ほど教育長が申し上げたとおり、教育委員会としても何らかの方向性を検討しましょうということで、今回このアンケートを実施いたしました。</p>
<p>今、佐藤守委員からお話がありましたが、全ての機能を市民ホールに持って行くのは金額的に難しいけれど、例えば科学教室みたいなものを一部だけ持って行くということも検討できないことはない、現場からは聞いております。教育委員会としてどこまでの施設が必要なのかを検討していかないと、市民ホールに併設するのか、教育委員会独自で建て替えをするのかということまで行かないということで、今回、委員の皆様にもご意見をいただきたいということです。</p>

<p>(佐藤守委員) わかりました。難しいですね。</p>
<p>(和野教育長) 市民ホールがどこに建つのかということも、決して影響しない訳ではないと思います。その前には、複合施設で良いのかどうかという判断もしなければなりませんし、まずは科学センターがいるのか、いないのかという議論から始めてもいいかなと思います。</p>
<p>(佐藤守委員) 苫小牧市はものづくりの町なので、科学センターはなくてはならない施設だと思います。</p>
<p>(和野教育長) そうですね。ものづくりも少し意識して欲しいという話も出てきています。</p>
<p>(植木委員) 教育現場では、科学センターができた当初から、小学校5年生のカリキュラムの中に入り込んでずっとやってきています。その役割は決して小さくはなく、博物館の博物館学習が社会科と連携し、科学センターは理科と連携してということとずっとやってきていますし、複合施設が良いのか単独施設が良いのかというのは難しいですが、これを無くすというのは、今までの役割から考えてなかなか出来ないのかなと思います。</p>
<p>お金の問題もあるので、立派なものが建つのが一番良いのですが、そうはいかない場合に、例えば民間企業に働きかけをして、自動車産業もあるし、製紙業もあるし、石油産業もあるし、そういった企業の力を借りても良いのかなと思いました。</p>
<p>アンケートを見ても、有料でも良いというような意見もありますので、そういったことも含めて、総合的に科学センターの在り方を考えていかなければならないのかなと思います。現状では、施設が古すぎるし、リピーターを呼び込むにしてもちょっと古すぎるのかなという気がしますので、そこは検討していかなければならないと思います。</p>
<p>(和野教育長) 今日この場で決めようというつもりは全くありません。これからいろいろと議論をしたいと思いますので、率直な意見があればお願いします。来館者数でいうと、小学校5年生の子供たちの数がかなりの割合を占めていますので、そこを</p>

見捨てる訳にもいきませんし、それがあから科学センターをやめるということにはならないだろうなと思います。誰が決めるかという、もちろん教育委員会で決める必要があると思っています。

(植木委員) もう1点いいでしょうか。かつては、夏期休業中に市教委の理科部会と科学センターが連携して、科学実験教室みたいなものを参加者を公募してやっていたのですが、立ち消えになってしまっています。そういう意味で、子供たちに科学的な考え方を広めていくと考えると、再度市教委の理科部会との連携もありうるのではないか、そして、科学を好む子供たちにそういう機会を与えてあげるということも、1つの方法かなと思います。いずれにしても、工夫しなければならないのかなと思います。

(教育部長) アンケートを行った関係機関について、少し説明してもらってもいいでしょうか。

(科学センター嘱託館長) 今回の関係機関のアンケートの回答者ですが、苫小牧教育研究会の理科部会さん、日本宇宙少年団苫小牧分団さん、苫小牧発明研究会さん、苫小牧科学の会さん、Let's Kids うとねっと苫小牧支部さん、トヨタ自動車北海道株式会社さん、苫小牧信用金庫さんとなっています。先ほど理科部会の話が出ましたが、理科部会の先生が中心になって毎年「科学の祭典」というものを開催しており、約20ブースが出展して当日は1,400人くらいの参加者がいます。これは、東高校さんや高専さん、王子製紙さん、北海道電力さん等にもブースを出していただいで中心になってやっていただいているものです。主催は苫小牧科学の会となっていますが、理科部会の先生や、会長は高専さんになっていただいで、そのような形で活動していただいでおります。それから、トヨタ自動車さんですとか今申し上げたところにつきましては、「科学のびっくり箱」等いろいろな形で科学センターを会場として実験や科学教室を開いていただいでいる団体ということで、アンケート調査をさせていただきました。

(和野教育長) よろしいですか。他になければ、取りあえず次回もまた議論をして

いただくことを考えております。いろいろな課題があればお示しいただきたいですし、質問事項があれば機会を改めてお願いしたいと思います。

それでは、先ほど秘密会とすることに決定いたしました議案第1号の審議を行いましたと思います。関係者以外は退席をお願いいたします。

(和野教育長) それでは、秘密会を解かさせていただきます。

なお、議案第1号につきましては、原案どおり決定いたしました。

8 委員会閉会の宣言 (和野教育長)・・・15時34分